

2024/1/10 (火)

朝の礼拝

聖書 詩編139編 1-4節 (旧約聖書379頁)

主よ、あなたはわたしを究め  
わたしを知っておられる。  
座るのも立つのも知り  
遠くからわたしの計らいを悟っておられる。  
歩くのも伏すのも見分け  
わたしの道にことごとく通じておられる。  
わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに  
主よ、あなたはすべてを知っておられる。

### 信頼

「あなた」とは神様のことです。そして「わたし」とはこの詩人のことです。はじめに詩人は「(神様が) わたしを究め わたしを知っておられる」とあります。「知る」とは神様が私の名前、身長、体重などを知っているという意味ではありません。聖書では知るには「愛する」という意味があります。

ですから「座るのも立つのも知り」とは私が生まれた時から、ハイハイの時、初めて立った時、そしてよちよち歩きの時も、いつも後を追う母親や父親のように、神様は私をハラハラしながら後ろで見守り、ずっと変わることなく愛し続けて下さったと歌っているのです。

時には、私が神様をととても遠い存在だと思った時も、いま思えば神様はずっと私の思いや考えをすべてご存じだった。私が旅をしていた時も、休んでいた時も私を見守り続け、神様は気づかないところで、すでに私の進むべき道も用意して待っていて下さっていたと歌っているのです。

そして私がまだひと言も語らない前から、私に必要なものをすべてご存じで用意しておられたと歌います。神様は私が気づかない、願う以上のものを願う前からご存じだと歌っています。だから神様は変わることなく私を愛し続けて下さっていると、この詩人は信頼しているのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは「幼子のようにならなければ神の国に入ることはできない」と言われました。どうかこれまでの歩みをふりかえり、あなたの愛を覚え信頼を深め、あなたの子として成長させてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン